

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営母体が変わり、法人理念のもと、皆で事業所としての理念(行動目標)を作成した。玄関やリビング、会議資料にも表示するなどして、実践につながるよう意識付けをしている。	地域密着型サービスを運営する法人の理念とグループホームの行動理念があり、来訪者の目にふれ易いように玄関や居間に掲示し、職員間での共有と実践に努めている。新しい職員が入職するなど、職員に異動が生じた時には、理念に沿ったOJTを通じて、その職員の理解を促すようにしている。利用者本人や家族に対しては利用契約時に理念に沿った取り組みについて説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症の影響もあり、地域住民との直接的な交流は途絶えている。今後、コロナ感染症などの状況を見ながら、コロナ前のような交流が行えるようになっていきたい。	一軒の家として区費を納め、村や区の配布物もありそれらから地域の情報を集め、可能なものには区の一員として活動している。新型コロナ禍が予断を許さないことから、殆どの地域行事が中止となり残念な状況が続いている。そのような中、地域の住民から野菜等の差し入れを沢山頂きホームとして感謝をしている。コロナ前に受け入れていた大学生の実習や中・高校生の職場体験の受け入れ等もこの数年中止してきたが、新型コロナ5類移行後ということもあり、徐々に再開していきたいとしている。また、コロナ収束後には地域行事への積極的参加や地域ボランティアの受け入れ等を再開する予定でいる。飯山市で行われているオレンジカフェの運営に法人として関わりを持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染防止の為、地域の方を事業所に招いた交流はできていないが、行政主催のオレンジカフェに職員が参加し、GHの状況や利用者様の生活の様子などを伝える機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年より、事業所における運営推進会議を開催し、地域の方や行政、同業者との情報交換を行い、頂いた意見を参考に運営している。	例年であれば利用者、家族代表、地区代表、民生委員、村民政課保健福祉係、地域包括支援センター職員、郵便局長、ホーム関係者の出席で、昨年7月からほぼ2ヶ月に1回、対面で開催している。利用状況や概況(活動)の報告、行事予定報告などの後、意見・助言などを頂き、運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡を密にとることで、施設運営や介護保険9期計画における施設移転の可能性についても、助言を得ている。	飯山市や地域包括支援センターが主になって実施する地域ケア会議に法人として出席し、情報交換をしたり、研修などを受け、運営面に役立てている。地域包括支援センターから法人本部宛てに入居の問い合わせなどがあり、対応することもある。介護認定更新調査は調査員がホームに訪れて行われ職員が対応している。また、介護認定更新や区分変更の際に家族から依頼を受け、代行して申請を行うこともある。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行っている。実際に帰宅願望のある利用者に対し、安易に玄関施錠することなく対応できるよう工夫している。	法人として「身体拘束等適正化のための取り組み指針」があり、「身体拘束は廃止すべきものである」としている。法人として、理事会開催時に、年2回、虐待防止検討委員会も兼ねて身体的拘束適正化検討委員会を行い、また、年1回、職員会で研修を行い意識を高めている。そのため、センサーマットや人感センサーについては使用することなく、定期巡回で所在確認をし、拘束のない支援に取り組んでいる。玄関は開錠されている。外出傾向の強い利用者があるが、話をして行動抑制をせずに寄り添う支援を徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行っている。職員会議の中でも、虐待防止の為に話し合いをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の対象者はいるが、学ぶ機会を持っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所予定の面談で料金の見積もりやGHでの生活について説明をした上で契約をしている。料金改定の時は文書や口頭で説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族のご意見については、都度対応しているが、アンケート調査をしてご家族や運営推進会議等で報告するという事はできていない。	殆どどの利用者が意見や思いを表出することができ、ホームで安心して暮らせるように、思いを受け止めている。家族の面会については自粛状態が続いていたが、新型コロナ5類移行を受け、また、感染が落ち着きを見せていることから、現在、事前に連絡を頂き、感染対策を取った上で時間、場所、人数についても緩和し面会を行っている。そうした中、受診や一時帰宅、外泊、家族との外食に出掛ける方もいる。更に、利用者の様子を写真入りの手紙として毎月の請求書に同封して家族に知らせ、喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や朝のミーティングにて話し合ったり、行事計画なども提案については積極的に実現できるようにしている。また、職員面談を行うなど直接法人代表者等と話会う機会も設けてきた。	月1回、25日前後に職員会議を行い、法人からの連絡、活動報告、行事予定、研修、インシデントの報告・検討などを実施し、また、利用者一人ひとりの状況についての検討、意見交換なども交え、サービスの向上に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ITC機器(ラインワークス)を使った記録物、日々の態度や様子、面談を通じて勤務状況を把握している。また、待遇面においては、職員のやりがい、向上心などを持って働けるよう努めている。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は月一回のペースで行っている。外部研修については、昨年度は認知症介護実践者研修、今年度は認知症介護基礎研修と職員の実績に合わせて研修の機会を作っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内事業所間において一緒に行事を行ったり、お出かけという形であったり交流はしているが、職員同士の積極的な関りは持っていない。運営推進会議では近隣のデイサービス管理者に参加いただいている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の本人とご家族との面談で、家族との関係性や得意なこと、好きなこと、GHでどんな生活がしたいかなどについて、情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面談は自宅や施設で行い、実際の生活の中で、家族や本人が困っていることなどを教えていただいている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域の中に使えるサービスが少ないので、GHとしてできるだけの対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様ができる家事や作業を一緒に行うことにより、共に役割がやりがいになったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	GHに入居していても家族とのつながりを大切にして、電話や外出、外泊を勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で出かけることは少なくなってしまうが、利用者様の地元へドライブに出かけたり、地元の友人等の面会も受け入れられている。	現在、知人や友人の面会についても家族同様に行っており、家族から連絡を受けた、友人などの来訪があり、感染対策を取った上で面会していただいている。お彼岸、お盆、年末年始、お墓参り等に家族と外出される方もいる。また、コロナ禍で理美容院への外出が難しかった時期もあったが、理容師の資格を持っている法人職員がおり、利用者と話しながら散髪をしている。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	利用者様同士は無関心だったり、言い争う こともあるが、職員が間に入り場の雰囲気 を変えたり、共同作業をする中でお互いに 触れ合うことで、日々の生活が平穩である ように支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHから違う施設へ転居したことはないが、 入院によって契約終了した時は病院への情 報提供をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	毎日同じパターンで生活することが多くなっ てしまうが、日々の暮らしの中の本人の言 葉や家族の言葉をよく聞いて思いの把握に 努めている。	殆んどの利用者が自分の意向を伝えられる。日々 の支援の中で「できること」「好きなこと」など を提案し、レクリエーション、食器洗いや洗濯物 干し・畳みなど、選んでいただけるように働きか けている。また、支援する時に聞いた「つぶやき」 などの情報はタブレットに纏め、毎朝の申し送り で共有したり、職員一人ひとりが出勤時に確認 し業務に活かしている。食事についてはチルド食 を使用しているが、「麺類」等は選択することができ 、希望に応じている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	入所時だけでなく、生活する中で本人の考 えやできることを把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりとゆっくりと会話したり、行動を 観察する中で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合 い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人の生活の中で、困難なことについて 職員同士での話し合いやご家族との相談等 を勘案して介護計画を作成している。	日々の関わりの中での訴えや状況を受け止め、毎朝 行われるミーティングの中で話し合い、情報を共有 し気づいた事柄についてはタブレットに残し、家族 の希望は面会時に聞きケアマネジャーがプランの 作成を行っている。入居時は家族との面会で聞い た情報を基に1ヶ月間様子を見て改めてモニタリ ングを行い、本プラン作成に繋げている。短期目 標は3ヶ月とし、状態が安定している場合は6ヶ 月で計画を立て、それぞれの期間で見直しを行 い、また、状態に変化が見られた時には随時見 直し、一人ひとりに合った支援に繋げている。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録については、毎日のケアだけを記録していたものから、利用者様の現状把握から生活の改善につながるような記録の仕方について見直しを図っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日安全に同じことを繰り返すことが多い、ご本人やご家族の希望に沿った柔軟な取り組みが必要。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	診療や床屋などは施設へ来ていただいている。時々近所の商店へ買い物へ行ったり、散歩に出かけたりはしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月二回訪問診療で医師の診察、検査を受けている。体調不良や検査があるときは、家族に連絡して受診している。必要に応じてご家族にも同席してもらっている。	入居時に医療機関についての希望を聞いている。現在、全利用者がホーム協力医による月2回の往診で対応している。法人本部のある小規模多機能型居宅介護事業所には看護師が3名在籍しており、何かあればホームに訪し、対応している。本部とのICT化が進んでおり、タブレット端末の画像を通して、日常的に看護師とやり取りができるようになっており、利用者の健康管理に取り組んでいる。歯科については必要に応じて協力歯科の往診及び受診で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本部の看護師とICT機器を利用してモニタリングしているため、体調不良、異常があれば相談や訪問、また、担当医に報告し指示を受ける体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は訪問医からの情報提供と看護師が同行し、施設での生活の様子を伝えている。また、看護師から病院ケースワーカーへ情報提供を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	基本的にはターミナルケアは行っていない。重度化や終末期では、入院や対応できる施設への退所となっている。	「重要事項説明書」に「重度化して寝たきりの状態となり、看取りの必要が生じた場合には関係者と協議し、継続介護、他施設等への移動・転居・帰宅など、利用者にとって最善の方策を検討する」との主旨が記載されている。利用契約時に利用者や家族に説明がされており、その状態に到った時には家族の意向も確認の上、ホームとして出来る限りの支援に取り組み、医療機関や他施設への住み替えを含めた支援に取り組んでいる。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡先や対応について明示や説明を行っているが、定期的な訓練までは行っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な訓練は実施している。災害発生時に備えての食糧の備蓄は不十分である。緊急時は近隣の特別養護老人ホームに避難することになっている。	今年度は春、秋の年2回、避難訓練を実施している。また、防災会社の協力を得て毎年、防災機器の点検も年2回実施している。玄関ホールの壁には、職員と利用者分のヘルメットと防災頭巾が用意されている。更に、緊急連絡網はスマートフォンのアプリを用い、一斉送信できるようになっている。備蓄については食料品と石油ストーブ等が準備されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	すべて個室対応であり、馴染みのものも身近に置くようにしている。入居者は全員女性であるが、プライバシーを損ねないよう配慮をしている。	「人権の尊重やプライバシー保護」の研修を年1回行い、必須研修として職員全員が受けている。家庭的な雰囲気大切に、利用者一人ひとりの尊厳を守り、生活歴を参考に利用者の出来ることを把握し支援している。呼び掛けは名前に「さん」付けて行っている。入浴介助や排泄介助については、同性介助を基本としており、利用者の意向に沿うようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、好みややりたいこと、できること、できないことを考慮しているが、集団的なかわりが多く、個別的な自己決定にまで働きが及んでいない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日同じようなスケジュールで、作業やレクを繰り返している状況がある。個別に楽しむ機会が少ない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪は全員同じ日に行ったり服装なども一緒に選んだりすることは少ない。その人らしい個別の支援は不足している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の支度を共にしたり、通常はクックチルであるが、時に行事食を計画し、彩や季節を感じ楽しんでいただいている。	利用者全員が自力で食事が摂れる状況である。副食については季節感を加味した配食食材を用い、麺類などは選択することができ、主食のお米は木島平産の美味しいものを使い、汁物はホームで調理し提供している。行事の際には希望を聞き、1品プラスしてお出しし、正月、クリスマス等には季節感を加味した料理を提供している。近所の方からの頂き物も多く、利用者もトウモロコシや根曲竹の皮むき、枝豆もぎ等、昔から慣れた手仕事を楽しみながら参加している。おはぎやおやき、ニラせんべい、ホットケーキなどを手作りして、おやつの時間に味わっている。	

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材はクックチルであり、栄養バランス的には考えられている。ほぼ全量摂取されている状況。食事は都度チェックしている。また、水分については尿量、むくみなどもチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きは基本的には自分でやっている。痛みや異常がある場合には、看護師が確認し、ご家族へ連絡し歯科受診をして頂く。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつパターンの記録や観察によって把握している。なるべく紙パンツやオムツの使用とならないように取り組んでいる。	全利用者がトイレで排泄できるように支援している。布パンツ使用の方、布パンツとパットを併用している方、リハビリパンツとパットを併用している方がそれぞれ三分の一ずつとなっている。ほとんどの方が自分のペースでトイレに行かれているが、時折、様子を見て時間の間隔が開いている場合は声掛けし誘導することもある。介護用品については利用者の状態に合わせ、法人としてまとめて購入し、利用者に請求している。また、排便促進を図るべく、麦茶やスポーツドリンク等で水分摂取にも取り組んでおり、排便については3日を目安にコントロールをするようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の利用者は多い。下剤の服薬の他、水分摂取を促したり、排便体操を行うことによって排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴拒否に対して別日に変更するなどの柔軟な対応をとっているが、決められた時間帯で入浴している。	殆どどの利用者が見守りを受けながらも自立している。入浴については基本的には週3回となっているが、希望があれば毎日でも対応することができる。季節に合わせて「ゆず湯」「菖蒲湯」等も行い、季節感を楽しんでいる。コロナ前には家族会を兼ねて温泉などにも出掛けていたが、今後、機会を見ながら再開したいという意向を持っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝については居室の他、リビングのソファなどで過ごし方は自由。夜寝る時間も自分のタイミングで就寝していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の詳細な内容について職員の理解は不十分である。服薬忘れのインシデントも発生しており、検討を重ねている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	大正琴を楽しむために修繕をし、発表の場を設けたりした方もいた。生活歴から配膳が仕事の方は皆さんの分まで片付けたりして、役割があることに充実感が感じられた。そのような関りを積極的に行っていきたい。		

グループホームふきんと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者全員でドライブに出かけたり、利用者の地元へ出かけたりすることはある。また、一人ひとりの希望に沿っての外出は少ないが、ご家族と一緒に食事へ出かけることはある。	外出時、歩行器を使用する方が若干名いるが、他の利用者は自力で歩け、天気の良い日には周囲の風景を眺めながら散歩し、季節の移ろいを感じている。また、時折、ドライブを兼ねて外出しており、飯山市内で行われた「雪まつり」などを見に出掛けている。また、自宅の様子を見に出掛けたり、家族と外食をしホームに戻る方もいる。外出レクリエーションを行う予定である。	今後、利用者の希望を把握し、ホームとして年間外出計画などを立て、また、普段、行けないような場所に、家族や地域の人々の協力を得ながら出掛けられるように支援されていくことを期待したい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様がお金を所持したり、施設側で預かることはない。欲しいものについては、ご家族が用意するか、施設側で一時立て替え払いで対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方はいつでも自由に通話を楽しんでいる。施設への電話で取り次いで話される方もいる。手紙のやり取りをする方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	民家という環境は、自宅にいるような感覚で、居心地よく過ごせている様子。ご家族も評価されている。若干冷暖房には難はあるが、快適に過ごせるよう対応している。	民家改修型の当ホーム玄関前には大きな石と雪解けの水を溜めた池があり、一般家庭の庭と同じく、手入れが行き届いている。玄関は外玄関と内玄関があり、ホールには法人の理念とグループホームの行動理念が大きく掲示され、来訪者にも支援の方針がわかり易くなっている。広い居間には食事テーブルと大きな仏壇、テレビ等が置かれており、利用者にとっての寛ぎのスペースとなり、日中の多くの時間を過ごしている。トイレは3ヶ所あり1ヶ所は車いす対応となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、縁側、居室などそれぞれ落ち着いて過ごせる場所がある。リビングのテーブル席では、利用者間の様子を勘案して提案している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれご自分の寝具や椅子など使い慣れた馴染みの物を置いたり、家族写真を飾ったりして安心できる環境づくりをしている。	各居室は十分な広さがあり、ホーム全体が民家改修型であるため基本的に日本間の造りを残し、自由な生活空間を確保している。入り口には表札が掛けられている。持ち込みは自由で、ベッド、衣装ケース、ハンガーラック、ソファ等が持ち込まれ、カレンダーや家族の写真、自ら制作した塗り絵や折り紙などが壁に貼られ、快適な日々を送っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	法人のリハビリスタッフにより、一人ひとりの機能に合わせた道具や動作方法(介助方法)を提供し、より安全な生活が送れるように取り組んでいる。		